



## 協力隊で導かれた自身の「生き方」 個性豊かな子どもたちを支える活動をライフワークに

山下 裕美さん 『よってカフェ』『あおむし』代表 (高岡市立福岡小学校教諭)  
Hiromi Yamashita

自分の力を試したいー若さゆえのチャレンジ精神が養護学校の教員から協力隊へと導いた。

ジャマイカで知ったのは、人の優しさと助け合いの精神が「社会で生きる力」になること。

障がいの有無に関係なく、子どもからお年寄りまで誰もが集える場所づくりで地域を変えていく。

### ゼロからスタートして 自分の力を試してみたい

祖母が視覚障害者だったという山下さん。その影響もあって大学では障害児教育を専攻し、養護・ろう学校の教員資格を取得。2000年から富山県立と nomi 養護学校の教員として、知的障害児の指導にあっていた。

「就職して1年目に、同僚が青年海外協力隊としてサモアに行く聞いたんです。人脈もなく言葉も通じない海外でゼロからスタートするのか……私も自分の力を試してみたい、と思いました」

念願が叶い、2003年に現職教員特別参加制度※を活用して協力隊に参加

した。派遣国はカリブ海の島国ジャマイカ。小さな港町であるポートアントニオの養護学校を中心に、知的障害児や聴覚障害児に図画工作を指導することが、主な活動だった。

### 図画工作を通じて 障害児の創作力を伸ばす

赴任した頃、図画工作などの情操教育は軽視されがちで、教室もなく放課後ベランダで授業をすることもあった。そこで同僚と相談し、宿泊学習を企画。日本の企業が資金を援助してくれた。

「2泊3日の合宿の間、ずっと図画工作をして、Tシャツ作りやローラー遊び、

ビッグペーパーペインティングにも挑戦。子どもたち一人一人が、伸び伸びと創作活動に取り組んでいました。図画工作が好きになった子もいて、新たな才能の発見になったと思います」

宿泊学習で残った資金を使い、学校の近くのバス停に壁画を描いた。ジャマイカの国旗を真ん中に、手を繋ぐ笑顔



※現職の教員が、その身分を保持したままJICA 海外協力隊に参加する制度。



養護学校の卒業生のために開設した『よってカフェ』。今では、障害や問題の有無を超えて地域の老若男女が集まる場になっている。

子どもたちが心と身体関係をコントロールできるようにと、活動には今話題のマインドフルネスも取り入れている。

3歳から中学生までが通う『あおむし』では、料理などの生活スキルを覚えることで、人との関り方やルールを身に付けていくという。



### 子どもたちへの支援の輪が広がるよう応援したい

教員をしていた時に山下さんを知り、その考え方に共感して、退職後は『あおむし』のスタッフとして活動しています。山下さんは、障害児や問題を抱